令和３年度　事業報告書

令和３年４月１日～令和４年３月 31 日

Ⅰ　全体事業概要

令和３年度は、今年度も新型コロナウイルス感染症一色の１年となりました。また台風の日本への上陸は３個であったものの全国各地でゲリラ豪雨による被害が発生し、梅雨明けは、昨年より２週間ほど早くなりました。管内では、台風や豪雨などによる大きな被害はなかったものの、８月では異例な長雨が続きました。今後も続く異常気象や新型コロナウイルス感染症の影響がどのようになっていくか心配なところである。

農地利用集積事業では、令和元年５月に「農地中間管理事業に関する法律」が改正され、２年度より本格的に農地中間管理事業への移行事務を行った。

今年度は、新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等を中心に農地中間管理事業への移行を行った。また、「地域まるっと中間管理事業方式」での取り組みは、コロナ渦でなかなか地域での話し合いが進まず１地区のみにとどまった。

農作業受委託事業では、農業機械更新に課題のある小規模農家や、世襲農地の維持管理を尊重する小規模農家からの受託業務を継続した。しかし、受託面積は減少傾向が続いている。これは、農地を賃貸借に移行する農家が増加していることが原因であると思われる。

担い手育成研修事業では、農業次世代人材育成支援事業による３名の研修生を受け入れた。

新たな担い手育成支援においては、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が難しい中、新農業人フェアや新城市単独のアグリチャレンジ相談会、メディア活用による広報、現地説明会等を開催した。

産直出荷農家としての期待を担う農業塾は、8 期生 10 名の塾生が 9 月に１年間の課程を修了し、9 月から新たに第 9 期生 10 名を受入れ研修を実施している。

種苗等生産事業の自然薯むかご生産については、愛知県園芸振興基金から委託を受けているもので、今年度は台風や豪雨による被害がなく、粒数的には昨年度を上回る数量となった。

菌床ブロック生産事業では、生産農家からの需要に応じ、菌床ブロック製造を行った。今年度については、製造個数が農家の高齢化等に伴い減少しているが、今後新規に就農希望もあることから、現状維持は確保できる見込みである。

収益事業の自然薯栽培では夏の長雨の影響等により、数量が減少した。一方、菌床シイタケ栽培については、コロナでの影響がなく、過去最高の収穫状況及び売上となった。また、重油の価格上昇に伴い、国や県の支援対象外となった菌床しいたけについて、市の単独の燃油価格高騰対策として交付を受けた。

Ⅱ　事業内容

1.農地利用集積円滑化事業

①　農地中間管理事業の改正を受けて、農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業へ移行したため、保有面積は減少した。今後も、満期等を迎える農地について、農地中間管理事業へ移行していく。

単位：ha

内　訳	地目	令和３年度保有面積	令和２年度保有面積
賃貸借	田	63.90	79.36
	畑	3.89	3.98
	その他	1.37	1.37
	小計	69.16	84.71
使用貸借	田	15.86	24.70
	畑	0.83	1.00
	その他	0	0
	小計	16.69	25.70
合　計		85.85	110.41

②所有者代理事業により売却希望相談に随時対応し､2件５筆の売買代理契約を行った。

面積単位：㎡

種別	買入		売渡		未処分	
	筆数	面積	筆数	面積	件数	面積
田	4	2,775	4	2,775		
畑	1	2,152	1	2,152		
その他						
農地合計	5	4,927	5	4,927		

・作手清岳　　水田(4筆)2,775㎡
　　500,000円(180千円/10a)
・一鍬田　　畑(１筆)2,152㎡
　　2,800,000円（1,301千円/10a）

2.農地中間管理機構業務受託事業

①　新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等について、農地中間管理事業への移行を行った。また、「地域まるっと中間管理事業方式」による取組みを１地区実施した。

単位：ha

内　訳	地目	令和３年度末設定面積	令和２年度末までの設定面積
賃貸借	田	154.94	115.49
	畑	1.94	1.25
	小計	156.88	116.74
使用貸借	田	99.46	79.95
	畑	3.64	2.17
	小計	103.10	82.12
合　計		259.98	198.86

②地域集積協力金交付地区

１地区（中河内12.2ha）

３.地域農業者の支援に関する事業

（１）農作業受委託事業

受委託事業については、面積的に減少傾向が続いている。これは、農地を賃貸借に移行する農家が増加していることが原因であると思われる。また、ここ数年続く長雨による影響で作業不能となったほ場もあり、軟弱ほ場の管理者には中干期の徹底や早期の水切り対策を依頼した。

作業受託内容	Ｒ３年度実績	Ｒ２年度実績	公社	委託
耕起	2.5ha	3.7ha	○	○
代掻き	1.1ha	2.6ha	○	○
田植え	3.7ha	5.9ha	○	○
育苗	980 枚	1,145 枚		○
畝立て	0.7a	0.9a	○	
刈り取り	11.5ha	12.9ha	○	○
採種刈り取り	19.9ha	19.3ha	○	○
乾燥調整	1,627 俵	1,756 俵		○
堆肥散布	5.6ha	9.6ha	○	

（２）担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

① 新型コロナウイルス感染症の影響で開催が難しい中、95 名とオンラインや面談を実施、他に動画を撮影し就農サイトでＰＲする等して勧誘活動に参加した。

※ 参考データ

イベント名称	会場名	開催日	面談人数	備考
新農業人フェア	東京 大阪	R3. 9.12 R3.11.13	7 4	オンライン参加 オンライン参加
ﾏｲﾅﾋﾞ就農 FEST	名古屋	R3. 9.18 R3.12.4 R3. 3.12	14 6 6	
就農林相談会	新城	R3. 9.26	12	
新城市アグリチャレンジ	新城 岡崎 浜松	R3.11.28 R3.12.12 R4. 1.16	16 11 5	
現地説明会（トマト・ホウレンソウ）	作手	R3.10.10 R4. 2. 6	6 —	現地 YOU Tube 閲覧方式
現地説明会（イチゴ）	新城	R3.11. 6 R4. 2. 5	8 —	現地 YOU Tube 閲覧方式
合　計			95	

② 農業次世代人材育成支援事業による３名の研修生を受入れた。内訳は第９期生として昨年の４月からトマト就農専攻者２名、７月からはイチゴ就農専攻者１名を受入れ、本年４月からトマト就農専攻者２名は国の農山漁村振興交付金農協の施設リース事業により就農を開始した。

③ 令和４年度の新規研修生見込者は、９期生のイチゴ１名（6 月まで）と公社研修 10 期生として、イチゴ就農専攻者３名が登録決定する予定である。

④ 農業塾では第８期生 10 名を受入れ、農業技術や知識のない受講生に対して農業経営への関心・意識の向上を図るとともに、農地の有効利用や直売

所の販売量や品目の充実化を目指し、多品種の栽培品目にチャレンジし令和３年９月、１年間の農業実習を10名が修了した。同年９月からは、引き続き第９期生10名を受入れ、令和４年９月まで露地野菜を中心に栽培技術実習を実施中。

⑤　農業インターンシップについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じなければならず、体験農家での対応が困難であったことから、受入がなかった。

４.農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

（１）自然薯むかご受託栽培

愛知県園芸振興基金協会受託の自然薯原々種むかご栽培は現地指導会などにより栽培管理は順調であったが７月の猛暑、８月の長雨により、心配されたが供給数量100，000粒以上に対し137，970粒となり、P-16及び稲武-2号ともに目標数量を納品することができた。

（２）自然薯一本種芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、規格サイズ4,044本の供給となり、予約数量4,394本に対して350本不足ではあるが25ｇ～29ｇの一本種芋で代替した。

（３）菌床しいたけ菌床ブロック受注生産

生産農家からの需要に応じて164,370菌床の製造を行った。製造個数が農家の高齢化等に伴い、受注が減少しているが、今後新規に就農希望もあることから、現状維持は確保できる見込みである。

品目	R3年度実績	R2年度実績
(1)愛知県園芸振興基金協会むかご受託栽培	137,970粒	108,500粒
(2)自然薯一本種芋受注栽培（*30ｇ～100ｇ）	4,044本	4,430本
(3)菌床しいたけ菌床ブロック受注生産	164,370菌床	169,142菌床

５.都市農村交流促進事業

（１）トウモロコシもぎ取り体験

夏休み期間中の作手地区の風物詩となり、体験需要も多いことから昨年度と同様に近隣遊休農地を確保し作付け本数8,000本を継続した、今年度は、台風被害もなく、コロナ感染防止から近場でのおでかけにより体験は約420名（前年90名）となり過去最高の体験者となった。

（２）ＪＡまつり

ＪＡまつりの人気コーナー『しいたけ詰放題』を計画していたが、コロナウイルス感染症の拡大防止に伴いイベントが中止となった。

６.農林産物生産事業

（１）自然薯栽培事業

自然薯栽培事業においては、夏の猛暑、８月の長雨及び種イモである切イモの生育が悪く、数量的に減少した。総収穫量311ｋｇ　（前年434ｋｇ）

（２）しいたけ栽培事業

しいたけ栽培事業では、公社供給種苗の検証栽培として夏出し 26,244 菌床、秋出し 10,730 菌床の栽培実証を行った。今年度は、過去最高の出荷状況であった。

総出荷量（ﾊﾟｯｹｰｼﾞｾﾝﾀｰ分のみ）　35,763ｋｇ（前年 28,530ｋｇ）

７.その他公社の目的達成に必要な事業

（１）イベント用ポップコーン種の栽培

面積　2ａ

（２）景観作物の栽培

菜の花栽培　15ａ

（３）作手小学校農業指導

小学生への稲作体験指導を行い、食べ物の生産過程を知るとともに感謝する食育を支援した。